

教科	商業	科目	簿記	単位数	4
学年	1年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	高校簿記新訂版(実教出版)				
副教材(出版社)	完全段階式標準検定 簿記問題集全商2級・3級(東京法令出版)				
授業の概要	簿記の基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。				
授業の目標	1 企業において発生する取引を仕訳し、勘定科目を経て、決算に至る簿記の基本的な仕組みについて理解する。 2 帳簿や財務諸表を通して、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第I編 簿記の基礎 第II編 取引の記帳と決算I	<ul style="list-style-type: none"> 簿記の意味、目的、役立ちなどを理解させ、学習の心構えを養う。 資産・負債・純資産・収益・費用のそれぞれの意味と種類を理解する。 現金、当座預金、その他の預金の意味を理解する。 3分法による商品売買損益の計算法と記帳法を習得する。 第II編で学習したいろいろな勘定科目の意味を理解し、正しい仕訳ができるようにする。 		
	2 学期	第III編 取引の記帳と決算II 第IV編 帳簿と伝票 第V編 取引の記帳と決算III 第VI編 本支店の会計	<ul style="list-style-type: none"> 約束手形と為替手形の違いを復習し、これらの手形の授受に伴う記帳法を理解する。 帳簿の種類と、帳簿組織およびそれらと分課制度との関係、帳簿種類の立案について理解する。 普通の売買取引と対比させながら、それぞれの取引の特徴を十分理解する。 支店会計の意味を理解させ、本支店間および支店相互間の取引の記帳法を理解する。 未達事項の意味と、その整理法を理解させる。 		
	3 学期	第VII編 複合仕訳帳制 発展編 株式会社の記帳	<ul style="list-style-type: none"> 複合仕訳帳の意味と合理化の方法を理解する。 各種の特殊仕訳帳の記帳法と総勘定元帳・補助元帳への転記法を習得する。 複合仕訳帳制における普通仕訳帳の役割を理解する。 株式会社と個人企業との記帳方法の違いについて理解する。 繰延資産の意味と種類について理解する。 剰余金の処分、社債、税金の記帳について理解する。 		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	企業の簿記の意味と役割を知り、簿記の学習に興味を示し、学習しようとする態度が見られたか。	簿記に関する諸問題の解決を目指し、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、工夫する能力を身に付けているか。	企業の諸活動を計数的に把握し、適切に処理するとともに、その財政状態や経営成績を的確に表現することができたか。	簿記の基礎的・基本的な知識を理解したか。 簿記の基礎概念の資産・負債・純資産・収益・費用について詳しく理解ができていないか。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均して総合的に評価する。				